

# だっこするよ

## 2026年1月



社会福祉法人茂原高師保育園  
北区立赤羽台保育園  
園長 奥戸 昌子

### 異年齢・多様性の中で育つ子どもの人権

新しい年を迎え、保護者の皆様には健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、日々の保育運営に深いご理解と温かなご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本年も、子どもたちを真ん中に、信頼でつながる園を共に創っていきましょう。

すべての子どもたちの「子どもの権利」—子どもの人権—を保育の第一義に据え、日々の保育を行ってまいります。子どもたちは「守られる存在」であると同時に、自分の思いや考えをもつ権利の主体者です。一人ひとりの声、意思に耳を傾け、その子の内なる成長を引き出せるよう、職員一同、遊びと丁寧な生活を大切にした保育を目指していきます。

以上児組での異年齢保育では、年齢の異なる子どもたちが共同生活をします。年上の子が年下の子を気遣ったり、手助けする中で責任感や思いやりが芽生え、年下の子は、憧れや信頼を通して社会性を学びます。お互いに役割をもち、必要とされる経験が協同する力の土台になっています。自分とは違う他者の存在を実感したり、自分の行動を調整したり、互いに支え合える体験は、自己肯定感を高めて、内面の精神的成长へつながると感じます。「子どもの権利条約」には、「子どもは、自分に関係のあることについて意見を表す権利をもっている」と示されています。園生活の中でも、「どうしたい?」「どう思う?」と気持ちを尋ね合いながら、一人ひとりの思いが尊重される関わりを大切にしています。自分の行動が誰かに影響を与える経験を通して、「自分も相手も大切にする」ことを学

んでいます。朝や帰りの集いで「うれしかったこと」「困ったこと」を話し合い、自分の意見を言葉で伝え、他者の意見を聴いて考える—その対話の積み重ねが、「誰もが対等で大切な存在である」という認識につながっていくと。異年齢保育は、多様性に満ちた子ども社会です。年齢や発達、個性の違いの中で、子どもたちは子どもから学び、自由自在に影響し合いながら育っています。一見すると、力の差があり、騒がしく見えることがあります、子どもたちはその違いを栄養にして、自らが考えて皆で自治を行い、守るべきルールや秩序を生み出し、話し合い、それを皆で守っていきます。まさに民主主義の実践そのものであり、大人社会と同じですね。

思い通りにいかない経験、友達とぶつかり合う経験、葛藤を経て分かれ合えた喜び、共に過ごして積み重ねる経験—そうした体験を通して、子どもたちは物事の理解を深め、やがて社会の中で他者と共に生きる力を育んでいきます。多様性を認め合い、思いやりをもって人と関わりながら生きていく力。すなわち、集団生活を行う目的は、ここにあると考えています。

来年度、異年齢保育へ移行して4年目を迎えます。それに合わせて、行事の在り方についても、改めて異年齢保育の視点から見直していきたいと考えています。これまで、同年齢ごとに成長を披露する「大きくなったねの会」を行ってきましたが、これからは、一人ひとりの「個性」を表現し、日々の異年齢の関わりの中から生まれている、それぞれの育ちそのものをお伝えできるようにと考えています。行事は特別な一日ではありますが、日々の保育と切り離されたものではありません。毎日の生活の中で育んでいる共生力を、保護者の皆様と共に感じ、喜び合える場となるよう、これからも子どもたちにとって最善の取り組みを丁寧に考えていきたいと思います。

さて、園では毎日、わらべうた遊びを通して、皆で笑い、つながり、共に過ごす時間を積み重ねています。それは、相手を感じ、関わり、共に愉しもうとする力を育む時間です。一人ひとりを周りが受けとめ合う—そんな日々の関わりの中に、子どもの人権や大切な育ちが息づいています。さあ、今年も、皆で子どもたちを包み込みましょう。大人チーム、どうぞ一緒に手をつないでくださいね。

写真：大きくなったねの会 どんどんさんです